

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヤナギムシガレイ

学名 *Tanakius kitaharai*

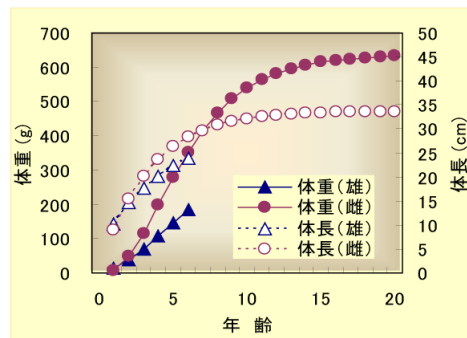
系群名 太平洋北部

担当水研 太平洋北部



生物学的特性

寿命: 雄6歳、雌20歳(ほとんどの個体は10歳)
成熟開始年齢: 雄2歳(大部分)、雌3歳(大部分)
産卵期・産卵場: 1～6月(ピークは1～3月)、仙台湾以南の沿岸各地
索餌期・索餌場: 周年、水深50～400mの砂泥域
食性: 多毛類と甲殻類が主要餌生物
捕食者: 不明

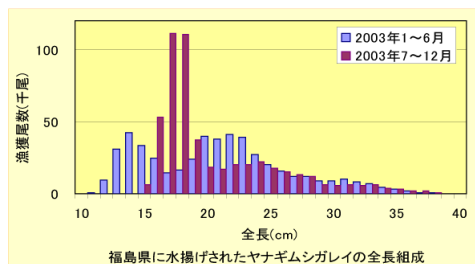
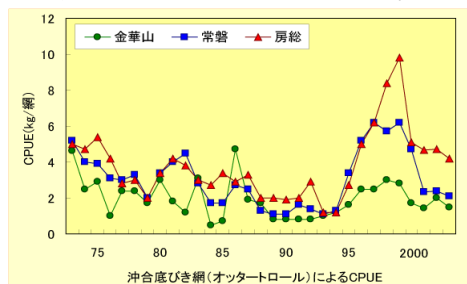
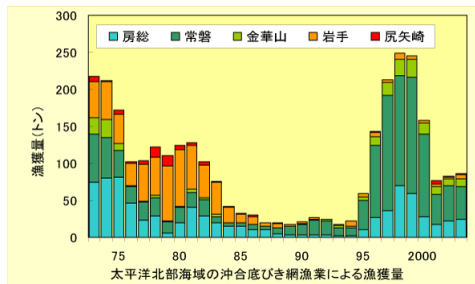


漁業の特徴

太平洋北部海域では、沖合底びき網漁業で最も多く漁獲され、次いで小型底びき網漁業で多い。本来南方系の種で、本海域の中でも南側に位置する福島と茨城で漁獲が多く、北側の青森と岩手では少ない。漁獲水深帯は水深50～200mで、繁殖期の冬場には80～100mで多く漁獲され、その他の時期には120～140mが多い。

漁獲の動向

沖合底びき網漁業の漁獲量は、大きな増減を繰り返している。1970年代前半に210トン以上を記録していたが、その後減少し、1980年代後半～1990年代前半には30トン未満で推移した。1990年代中盤から増加傾向を示し、1998年および1999年には240トン以上になり過去最高を記録したが、2000年以降には再び減少傾向にある。



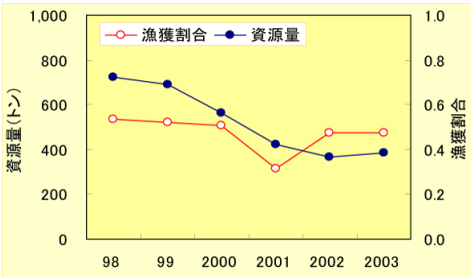
資源評価法

1998～2003年に漁獲されたヤナギムシガレイについて、前後期に分けてage-length keyを作成し、それをもとに年齢別漁獲尾数を求め、コホート解析により資源量を推定した。

資源状態

資源量は1998年には700トン以上であったが、その後減少し、2003年には386トンまで減少した。加入量の年変化が大きく、加入量次第で漁獲量が大きく変化している。近年の加入状況は悪く、1990年代後半に比べ資源は大幅に悪化している。しかし、1970年以降の漁獲量とCPUEをみると、現在の漁獲量とCPUEは中位水準を維持していると考えられる。





管理方策

1990年代後半の漁獲量増加は複数年にわたる卓越年級の発生によるものと考えられる。しかし、これまでの沖合底びき網漁業のデータでは、漁獲量、CPUEともに長期的な変動を示しており、長期間にわたり卓越年級が発生しない時期もあることが示唆されている。そこで、卓越年級が発生しなくとも資源を高い水準に回復させることを管理目標とした。資源が中位、減少傾向であるため、F30%に0.8を乗じたものをFlimit、Flimitにさらに0.8を乗じたものをFtargetとし、ABCを算定した。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	64トン	0.8F30%	0.26	21%
ABCTarget	51トン	0.8・0.8F30%	0.21	17%

資源評価のまとめ

- 資源は1998年をピークとして減少している

管理方策のまとめ

- 平均レベルの加入でも資源が徐々に回復するように漁獲を規制すべきである
- 漁獲圧をF30%SPRまで下げるにより、資源の増加が見込める

資源評価は毎年更新されます。